

ウルグアイ（2025年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在ウルグアイ日本国大使館](#)

1. 2024年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

1.2024年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	16	163	6	16	163

（注）2024年度日本語教育機関調査は、2024年9月～12月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

2025年1月現在、ウルグアイには10の日本語教育機関が存在する。

1. 在ウルグアイ日本人会附属日本語学校（コロン地区）

ウルグアイにおける日本語教育の原点は、在留日本人有志によって設立された日本語教育維持会が日系子弟のための日本語学校を開校した1952年にまで遡る。1972年、日本人会は、モンテビデオ市コロン地区に現在の会館を購入すると同時に、日本語教育維持会より運営を引き継いだ。こうした経緯から、在ウルグアイ日本人会附属日本語学校は従来日系子弟のみを受講者としてきたが、2003年にそれまでの方針を改め、新たに一般市民を対象とした日本語講座も開始した。現在はウルグアイ人向けのクラスが主軸となっている。

2. さくら日本語講座（セントロ地区）

1964年、日・ウルグアイ文化交流協会によって、モンテビデオ市セントロ地区にウルグアイ人向けの日本語講座として開講された。その後、財政的困難により日本人会に運営を委ねていた時期が長く続いたものの、2002年8月からは再び日・ウルグアイ文化交流協会が運営を引き継ぎ、2003年7月には私立ORT大学内へと移設され、名称をさくら日本語講座と改め、同大学の学生、その他学生、社会人を対象としている。

3. 共和国大学人文科学・教育学部 外国語センター日本語講座（セントロ地区）

日本・ウルグアイ外交修好80周年を記念して2001年6月、共和国大学人文科学・教育学部内に日本語講座が開設された。2003年からJICAよりシニアボランティアが派遣され、大学に相応しい日本語講座の設立を目指して本格的な活動が開始された。同大学はウルグアイで唯一の国立総合大学であり、由緒ある伝統校である。同講座には共和国大学の全学部の学生が参加している。

4. 私塾語学講座『フェニックス』（セントロ地区）

フェニックスでは、中国語をはじめ、ロシア語、アラビア語、日本語など、グローバル化とともに使用頻度の増している語学を専門に扱っている。日本語の授業は2011年2月に開始。ウルグアイ人教師が日本語講座を担当している。

5. Kame House

2014年開校。メキシコ人教師がウルグアイ人向けにクラスを開講している。

6. Berlitz

1998年より、希望者がいる場合にクラスを開講している。

7. International House Montevideo

2009年開校。初級・中級・上級レベルの講座が開かれている。日本人教師とウルグアイ人教師が授業を担当している。

8. カトリカ大学外国語センター

2021年より、カトリカ大学の生徒向けにオンラインの日本語講座を実施している（大学の単位となる正式な授業ではない）。前述のKame Houseで日本語を学習したウルグアイ人の学生が、教師として授業を担当している。

9. Mochiron

2016年開校。ウルグアイ人教師がクラスを開講している。

10. Toufuu – Club de idioma japonés

2017年開校。ウルグアイ人教師がクラスを開講している。

背景

ウルグアイは地理的に日本から最も遠く離れた国のひとつである上、日系企業も少なく、在留邦人の数も少ない。日系人の間では子弟に対して日本語を伝えていきたいという気持ちもあり、日本人会では日系子弟向けの教室が開かれているが、世代交代とともに家庭でも日本語が使われなくなり、生徒数が年々減少傾向にある。また、ウルグアイ人の間では日本文化への関心が高まるとともに、日本語を学びたいという希望者は増えているが、経済的な事情や難易度から継続が困難な生徒もおり、学習者の数の大きな増減は見られない。

特徴

在ウルグアイ日本人会附属日本語学校及びさくら日本語講座では非常に幅広い年齢層の人（小学生から年金受給者まで）が学んでおり、またその目的もさまざまである。コース修了時に開催する懇談会などを通じてモチベ

ーションを高めるほか、日本文化の発信を心がけ、日本の行事（端午の節句や七夕など）をはじめ書道や日本の歌、折り紙などを日系子弟の授業の中に積極的に取り入れるなどしている。

共和国大学日本語講座では、同大学の学生を対象とし日本語教育が行われている。

また、JF の助成を得て、在ウルグアイ日本人会附属日本語学校主催のもと毎年弁論大会が開かれ、他の学校の学習者も参加しているほか、文部科学省国費留学生制度などにより日本を訪問する受講者もあり、これらは日本語学習とその継続における大きな動機の一つとなっている。

最新動向

特になし。

教育段階別の状況

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

共和国大学人文科学・教育学部 外国語センター日本語講座：共和国大学の全学部の学生が対象。

学校教育以外

在ウルグアイ日本人会附属日本語学校（コロン地区）：日系人及び一般市民が対象

さくら日本語講座（セントロ地区の ORT 大学内に設置）：ORT 大学学生及び一般市民が対象

フェニックス：一般市民が対象

Kame House：一般市民が対象

Berlitz：一般市民が対象

International House Montevideo：一般市民が対象
カトリカ大学外国語センター：カトリカ大学学生及び一般人が対象

Mochiron: 一般市民が対象

Toufuu – Club de idioma japonés: 一般市民が対象

3.教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

2-6-3-3 制。

初等教育は幼稚園 2 年、小学校 6 年、中等教育は中学校 3 年、高等学校 3 年、職業技術学校が 2～3 年。

高等教育は、大学が2～6年、教員研修所が3～4年、職業教育2～4年。

義務教育は、4歳（幼稚園年中）から18歳（高校3学年）の14年間。

大学へは、原則として中等教育修了書を有することで入学可能。ただし、前述の条件に加え、希望する専攻により中等教育内容に相当する入学試験を受験することが必要な場合がある。

教育行政

幼稚園は公教育公社(A.N.E.P)及び教育文化省が、初・中等教育、職業教育、教員研修所は公教育公社(A.N.E.P)が、その他の高等教育は教育文化省が管轄している。また、共和国大学及び工科大学は独立した機関となっている。

言語事情

公用語はスペイン語。ブラジルとの境界の地域ではポルトガル語も用いられている。

外国語教育

小中学校で外国語授業として全ての生徒が英語を学習。ブラジルとの国境地域では、ポルトガル語も導入されている。私立の小中高等学校では、英語以外の教育も行われる場合がある。公立中高等学校では、自由選択科目としてドイツ語・イタリア語・フランス語・ポルトガル語・ウルグアイ手話が教えられている。

高等教育機関では、主に英語が教えられており、英語を必修とする課程は多い。大学などでは他のヨーロッパ言語やアジア言語なども教えられている。

外国語の中での日本語の人気

外国語として英語やポルトガル語、フランス語、イタリア語、ドイツ語を勉強する学習者が多い。アジア言語のなかでは中国語の孔子学院、韓国語の世宗学堂開校により両言語の関心が高まっているが、日本語学習者は大きな増減は見られない。

大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われていない。

4. 学習環境

教材

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

共和国大学日本語講座では、日本で出版された日本語教科書（『みんなの日本語』初級ⅠⅡ、及び副教材）スリーエーネットワーク（スリーエーネットワーク）のほか、教師がオリジナルの会話を入れて編集した教科書『にほんごⅠ』及び『にほんごⅡ』などを使用している。

学校教育以外

日本で出版された日本語教科書や自作テキストのほか、ビデオ及び絵本を使用している。また、日系人対象の講座ではこれらの教材のほかに、父兄も対象にした折り紙教室、季節の節句のお祝い、日本の音楽などを取り入れたフリータイムの授業も行われている。

IT・視聴覚機材

日本語教育に IT・視聴覚機材は使用していない。

5.教師

資格要件

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

日本語は、英語やフランス語のように学校教育科目の外国語教育として存在しないため、日本語教師になるための資格要件は特にない。共和国大学では JICA のシニア海外ボランティアが教師となっている。

学校教育以外

在ウルグアイ日本人会附属日本語学校では在住の日本人と日系人とウルグアイ人、さくら日本語講座では在住の日本人と日系人、フェニックス、ベルリッツ、インターナショナルハウス・モンテビデオでは日本人とウルグアイ人、カトリカ大学、Mochiron、Toufuu – Club de idioma japonés ではウルグアイ人、Kame House ではメキシコ人とウルグアイ人が教師をしている。

日本語教師養成機関（プログラム）

日本語教師養成を行っている機関、プログラムはない。

日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

日本語のネイティブ教師として働くのは、JICA 派遣のシニアボランティア（共和国大学人文科学教育学部外国語センター日本語講座、及び在ウルグアイ日本人会附属日本語学校の教師数名）。

教師研修

現職の日本語教師対象の研修はない。

現職教師研修プログラム（一覧）

特になし。

6. 教師会

日本語教育関係のネットワークの状況

在ウルグアイ日本人会附属日本語学校、さくら日本語講座、共和国大学日本語講座、Kame House と私塾教師からなる日本語教師連絡会が発足しており、勉強会を実施している。

最新動向

ウルグアイにおける日本語教員数が不足している中、今後ウルグアイ人の教員養成が望まれる。

以前はウルグアイの日本語学習者は日本語能力試験受験のためにアルゼンチンなどの近隣国に赴く必要があり、旅費や滞在費などの追加的なコストが発生していたが、2017年12月より、ウルグアイでも日本語能力試験の受験が可能となった。国内で受験が可能となったことから、学習継続者の増加、学習意欲の向上が期待される。

7. 日本語教師派遣情報

国際交流基金からの派遣

なし

国際協力機構（JICA）からの派遣（2025年10月現在）

シニア海外協力隊

共和国大学人文科学教育学部 1名

在ウルグアイ日本人会附属日本語学校 1名

その他からの派遣

（情報なし）

8. シラバス・ガイドライン

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムは確認されていない。

9. 評価・試験

共通の評価基準や試験は確認されていない。

10. 日本語教育略史

1952 年	日本語教育維持会による日系子弟のための日本語学校開校
1964 年	日・ウルグアイ文化交流協会によってウルグアイ人向けの日本語講座開講
1972 年	日本人会が日本語教育維持会から日本語学校の運営を引き継ぐ（在ウルグアイ日本人会附属日本語学校）
1998 年	Berlitz にて日本語講座開設
2001 年 6 月	共和国大学人文科学教育学部内に日本語講座開設
2002 年 8 月	一旦中断されていた（ウルグアイ人向けの）日本語講座の運営を日・ウルグアイ文化交流協会が引き継ぐ
2003 年	在ウルグアイ日本人会附属日本語学校が一般講座を開講 共和国大学人文科学教育学部内に JICA シニア海外ボランティア派遣開始
2003 年 7 月	日・ウルグアイ文化交流協会の（ウルグアイ人向けの）日本語講座を私立 ORT 大学内に移設、「さくら日本語講座」と改称
2009 年	International House にて日本語講座開設
2011 年 2 月	セントロ地区のフェニックス私塾語学講座で日本語講座が開始
2014 年	Kame House 開校
2016 年	Mochiron 開校
2017 年	Toufuu – Club de idioma japonés 開校 ウルグアイ国内で日本語能力試験受験が可能となる
2021 年	カトリカ大学で日本語講座（非公式）が開始

情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。
なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合もあります。

Eメール：kunibetsu@jpf.go.jp

(メールを送る際は、全角@マークを半角@マークに変更してください)